

- すみよし
①住吉遺跡 昭和55年、発掘調査開始前の集合写真。若宮八幡神社の祭典準備で土器を発見したことを契機に調査が計画された。
- むじなおか
②六科丘遺跡 昭和57年、古墳時代初頭の建物跡から出土した土器。同遺跡の土器群は、当時、県内の土器の指標として用いられた。
- にしかわ
③西川遺跡 昭和59年。大明保育園建設に伴って調査された。隣接する甲西中学校の生徒も発掘調査を体験した。
- しょうぎがしら
④将棋頭 昭和62年。役割を終えた堤防は土砂に埋もれていたが、この調査により構造などを解明。国史跡への道筋をつけた。



平成4年8月、下市之瀬の鋳物師屋遺跡で、その後日本の縄文文化を代表することとなる資料が多く発見されました。中でも上の写真の土偶は命の象徴といえ、左の写真は出土した土地の様子です。

南アルプス市の縄文文化が世界の縄文文化となった瞬間といえます。

山梨県考古学協会地域大会

あの時歴史は動いた

～南アルプス市の歴史を変えた発見の物語～

先月号や右ページでご紹介した、市や県の歴史が動いた新発見の瞬間。その瞬間に立ち会った、時代の目撃者たちによるリレートーク。写真や本物の遺物を交えて繰り広げます。

また、それに先立ち、歴史を動かした遺跡を巡るバスツアーも行います!

国史跡の石積出しではミニ発掘体験! 市之瀬台地では、畑を歩いて土器片などを採集するミニ分布調査体験!ができます。

開催日 平成26年11月15日(土)

内容
第1部 午後1時発 市内遺跡バスツアー(要申込)
Aコース:石積出し体験発掘→柵形堤防ほか
Bコース:市之瀬台地で分布調査体験
→甲西バイパスの遺跡ほか
第2部 午後3時～あの時歴史は動いたリレートーク
(申込不要)

集合・会場 ふるさと文化伝承館
参加費 無料
お問合せ・申し込み
文化財課 282-7269 / 土日 ふるさと文化伝承館 282-7408



昭和59年頃、櫛形山の中腹からの写真。六科丘遺跡(現あやめが丘・左下の白く見える範囲)の調査が終わり工事が進められている様子。左右に見える白いラインは釜無川。甲西バイパスはまだない。

南アルプスヒストリーサプライズ2
昭和50年代～南アルプス市の歴史が動いた



南アルプス市において、初めて考古学的な手法で発掘調査が行われたのは住吉遺跡(甲西地区古市場)の調査で、昭和五十五年にさかのぼります。

おりしも、山梨県内において釈迦堂遺跡や金生遺跡の調査などの大発見が相次ぎ、埋蔵文化財への関心が高まり始めた頃です。

住吉遺跡の調査は、南アルプス市の歴史にメスが入れられた記念すべき調査といえ、低地部に存在した弥生時代の集落の詳細や、東海地方との文化の交流を示す土器の発見など、南アルプス市に新たなページが加わった瞬間といえるものでした。

また、初めて大規模な開発事業に伴って発掘調査が行われたのは、櫛形地区あやめが丘の住宅街を造成する際に行われた「六科丘遺跡」の調査で、昭和五十七年から五十八年にかけてのことです。当時は大学の教授に依頼し全国から学生が集まり調査が進められました。この地域に文化財専門職員が採用される契機となった調査で、文化財保護行政の大きな一歩といえます。

上の大きな写真をご覧ください。六科丘遺跡の調査が終わり住宅街へと生まれ変わろうとしている様子が伺えます。まだ中部横断道はありません。これから約十年後に、先月号で紹介したとおり中部横断道の建設に伴って市内低地部にメスが入り、市のみならず山梨県の歴史をも変えた数々の発見をもたらしたのです。

昭和五十年代以降、考古学調査の幕開けと同時に未知の分野が開拓され、その都度南アルプス市の歴史は塗り替えられてきました。これからも絶えず歴史のページは加わり、また見直されてゆくことでしょう。歴史が動くとき、その目撃者はあなたかもしれません。